

全国 保健師長会 だより

平成27年度
第1回理事会報告

■議事報告

4月25日(土)ホテルリステル新宿にて開催された第1回全国保健師長会理事会では、冒頭に鎌田久美子会長から「昨年度、保健師が多くの災害に対し常に迅速に対応したことで、保健師活動がさらに評価されたと同時に、保健師への期待が大きくなっていくことがわかった。一方で、乗り越えていかなければならない課題も多いことから、全国の保健師が情報交換し、リーダーとして若い保健師たちに仕事の進め方や方向性を示し伝えていくことが大事である」とのあいさつがありました。議事の主な

平成27年度第1回全国保健師長会理事会 および講演会報告 平成26年度全国保健師長会北海道支部 研修会報告

全国保健師長会 会長 鎌田 久美子

内容は以下のとおりです。

- 1 今年度は「社会の課題に向き合う保健師活動の展開―保健・医療・福祉をつなぎ安心して健やかに暮らせるまちづくりの実践―」をテーマに、①地域保健福祉分野における専門性の確立 ②プロック、支部活動の強化 ③息の長い被災地の支援 ④会員数の拡大の4項目を柱に活動します。
- 2 最重要活動目標は、「保健師活動の質の向上・標準化の取り組み」「情報発信の強化」「災害保健活動の推進」「市町村の会員拡大に向けた取り組み」です。
- 3 近年、力を入れてきたプロック研修会では、前年度に引き続き「地域における保健師の保健活動に関する指針」に基づいた保健師活動の体制整備と保健活動の推進

その後、研修テーマについて、以下の通り進めました。初めに石狩市主幹の鈴木美佳氏から「地区担当制の取り組み」について実践報告がありました。制度改正や市町村合併の中で業務分担が加速し、しだいに地域とのつながりが減少していったが、平成20年度、新人保健師採用を契機に、個別支援・地区担当を意識し、新人保健師現任教育実施要領作成などの基盤を整備。町内会との協働事業に主査職・中堅・新任が住民の声ややりとりを事業化するプロセスを一緒に体験。また、地区担当リーダーを配置し、困難事例の対応や地区活動の検討等実践活動を共有。併行して、リーダー保健師も全国規模の研修に参加し、保健師の専門性、地区活動の意義、管理者の役割を学び活動に反映させた。その結果、一人で抱えていた仕事チーム・組織で支え合う体制になり、「市の健康課題は保健師全体で話し合ったほうがよい」「受け持ち地区を健康にしたい」との熱い声も聞かれるようになった。「今後も分散配置職場との情報交換や事業検討会等に取り組み、住

をめざし、「地域における保健師の保健活動に関する指針」を基に保健師活動について検討、「保健師活動の実践報告」「ソーシャルキャピタルの醸成にかかる保健師の能力形成に関する報告」を今年度のテーマとして取り組みをお願いしたいと話がありました。

- 4 その他、各分会・委員会・プロック活動報告、国家要望(案)



理事会であいさつをする鎌田会長

等についての説明がありました。

■講演会報告

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課保健指導室長の島田陽子氏から「地域保健の動向とリーダーに期待すること」と題して、講演をいただきました。

内容は、「宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)プログラム」「特定保健指導実施率向上に役立つ好事例集」「被災地健康支援について」「災害時に備えた情報登録」「保健師活動指針」について、「保健師の人材育成について」など、国の動向から保健師活動の現状と課題、今後の方向性を示唆していただきました。

また、リーダー保健師に期待す



講演する厚生労働省健康局がん対策・健康増進課保健指導室長の島田陽子氏

民の生活や声がかみ取れる、ぶれない保健活動をめざしたい」と今後の展望も含めてお話しいただきました。

次に、日本赤十字北海道看護大学准教授の近藤明代氏より「地区活動を推進する力をどう育てるか」について、なぜ、いま、地区活動が課題なのか? 地区とは? 地区活動とは? 生活・生活者とは? 保健師の専門性とは? 公衆衛生とは? 等々、事例を通して中核となる考え方を講演いただきました。保健師の仕事は、住民の人生にかかわることが特徴。その人生や暮らしは地域(風土や文化など)や社会の中で展開される



北海道支部研修会の様子

平成26年12月13日(土)札幌市において「地区担当制の推進」をテーマに、研修会を開催しました。冒頭、岩手県で開催された代議員総会の報告を行い、地域保健を巡る国の動向や災害対策における公衆衛生活動について情報を共有し、また全国保健師長会活動の理解を図りました。

平成26年度 北海道支部研修会報告

ることとして、「いま行っている仕事の目的や実施状況を明確にし、評価をしっかりと行っていくことが重要である。そのことが、仕事の成果や職員のやりがいにもつながる。年度が替わり、職員も配置転換することで視点が変わり新たな発想につながり、新しい価値観に触れることができるので、業務レビューは有効である。また、保健師の人材育成は人財育成、『コスト』より『投資』と考えることが大切である」とお話がありました。

当日のパワーポイントの資料は、当会のホームページにアップしますので、ご覧ください。

(文責)広報委員会

意見交換では、「市町村も保健所も同じ悩みがある」と現状・課題を再認識し、「保健師活動に意味づけすることができた」「活動の丁寧な積み重ねが大事」「研修内容を職場で共有し考えたい」など、前向きな意見・感想が寄せられ、明日からの保健活動に生かされる研修会となりました。

(文責)北海道支部長 大岩敦子